

インフルエンザ

毎年
接種

インフルエンザについて

冬に大流行する呼吸器の感染症で、気管支炎や肺炎、脳炎・脳症、中耳炎を起こすなど**重症化しやすい病気**です。**約1～4日の潜伏期間**の後、高熱・だるさ・のどの痛み・頭痛などが出ます。腹痛や嘔吐などの症状が出ることもあります。

熱は4～5日続くことが多く、小児の場合は一旦解熱した後数日後に再び発熱する2峰性の経過をたどることがあります（大体はその後自然に解熱していきます）。

日本の小児の**脳炎の最大の原因**で、

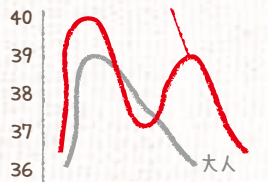
毎年200～500人が脳炎になります。

脳炎は発熱して2日以内に起こりやすく、

治療しても死亡や後遺症をのこす場合があります。

インフルエンザと診断された場合、発熱後5日を経過し、かつ解熱後2日（幼児は3日）経過したら登園できます。

子どもは解熱した数日後に再び熱が出る場合があります



検査は？

検査としてはインフルエンザ迅速検査がありますが、診断は診察も含めて総合的に行うため検査は必ずしも必須ではありません。

また、**発熱12時間以内では、正しい結果がでないこともあります。**



治療法は？

自然経過で治ることがほとんどです。

抗ウイルス薬（タミフル、イナビルなど）は発熱後48時間以内の服用で1～2日早く熱を下げる効果がありますが、重症化や脳症を予防できるわけではないともいわれています。

妊娠中もしくは授乳中の母親が抗インフルエンザ薬を使用しても胎児や授乳中の赤ちゃんには影響がないとされています。

妊娠中や
授乳中でも
大丈夫です！



ワクチン について

インフルエンザにかかりにくくなることで、結果的に肺炎や脳炎などの合併症の予防効果が期待できます。妊婦さんへの接種は、本人だけでなく生まれてくる赤ちゃんのインフルエンザ発症予防にもなりうるとい報告もあります。

赤ちゃんは**生後6ヶ月以降**で接種可能。

13歳未満は原則2回接種（2～4週の間隔をあける）が必要です。

流行する型が違うので、**毎年接種**が必要です。

接種後2週目から5ヶ月程度効果があります。

10月になったらかかりつけ医で接種を開始しましょう。

卵アレルギーがあっても接種可能です。かかりつけ医とご相談ください。



6ヶ月以降接種可能

毎年接種

妊娠中の接種可能

すぐに受診

- ☐ 呼吸が苦しい ☐ **けいれん**
- ☐ 呼びかけてもぼんやりしている
- ☐ つじつまの合わないことを言う、動き回るなど**異常言動**がある

家庭での ケア

Point

見守り・安静・水分補給

異常行動（飛び降りなど）を起こすこともあり、熱が出てから2～3日は家族がそばについて**子どもを見守る**ことと、**クーリング、安静、こまめな水分補給**が大切です。（発熱を参照）



潜伏期間 1～4日 **改善まで** 4～5日